

---

 論 文
 

---

## 日本語中級学習者に対する漢字指導の試みについて

京 祥太郎\*1

キーワード：日本語中級者、漢字指導、JLPT、アクティブラーニング、アウトプット

## 1 はじめに

日本留学がベトナムやネパールなどの非漢字圏からの留学生が多くなってきた現在、非漢字圏の留学生の多くが苦手としている漢字学習への効果的な指導が求められている。独立行政法人日本学生支援機構によると、2023（令和5）年5月1日現在の留学生総数（在留資格「留学」を有する者）は279,274人で前年比より20.8%増加しており、出身国（地域）別留学生数のトップ3としては、中国（115,493人）、ネパール（37,878人）、ベトナム（36,339人）であったり。中国・台湾等の漢字圏以外の非漢字圏からの留学生の割合は約6割をしめているが、日本政府は2019年度に30万人留学生受入政策が達成されたことで、現在は、2033年までに留学生受入40万人という目標をかかげており、今後も非漢字圏からの留学生の増加が示唆されている。

日本語能力試験<sup>註1</sup>（以下、JLPT）は2010年に改定され、現在は新しい試験（以下、新試験）として実施されており、2010年以前の旧試験では最上級レベル1級（新試験によるN1レベル）で2,000字の漢字が認定基準となっている。JLPTはマークシート形式で、言語知識の文字語彙としてN2では、漢字読み（漢字で書かれた語の読み方を問う）、表記（ひらがなで書かれた語が、漢字・カタカナでどのように書かれるかを問う）問題が出題されており、多くの留学生がJLPT合格を目指して漢字の学習をしている。

これまでも漢字学習には多くの先行研究が行われているが、中村（2019）をはじめ多くの研究者が、学習者のモチベーション低下などの問題を指摘しており<sup>2</sup>、飯嶋（2015）のように語彙マップなどを使用し、漢字

学習を自律的に行えるよう授業の工夫をしたりしている<sup>3</sup>。『国際交流基金日本語教授法シリーズ第3巻「文字・語彙を教える」』（ひつじ書房）によると、漢字学習については、学習者が興味を持つような活動をした、頭の整理を促すような活動をしたことは、日本語学習を続けていくために重要なことだと述べている<sup>4</sup>。さらに、第二言語の習得過程を教材作成に活かすためのポイントについて『国際交流基金日本語教授法シリーズ第14巻「教材開発」』（ひつじ書房）によると、

- ① インプットからアウトプットの流れにどのような盛り込むか。
- ② どのようなインプットを教材で与えるか。
- ③ 理解できるインプットを増やすために、教材でどのような工夫をするか。
- ④ アウトプットの機会をどのように提供するか。
- ⑤ 習得をうながすために、どのように言語知識を与えるか。

と述べている<sup>5</sup>。

現在、R大学では、交換留学生を半年または1年で受入れているが、その多くが在学中にJLPTのN1もしくはN2に合格することを目標に留学をしている。そのため、日本語コースは到達目標の一つにJLPT合格をあげJLPT対策を行っている。そこで、本研究では、R大学での交換留学生に行ったJLPT受験予定者を対象に2023年10月～2024年7月に実施した漢字指導の試みについて紹介する。そして、第二言語の習得過程

---

 \*1 至誠館大学 現代社会学部

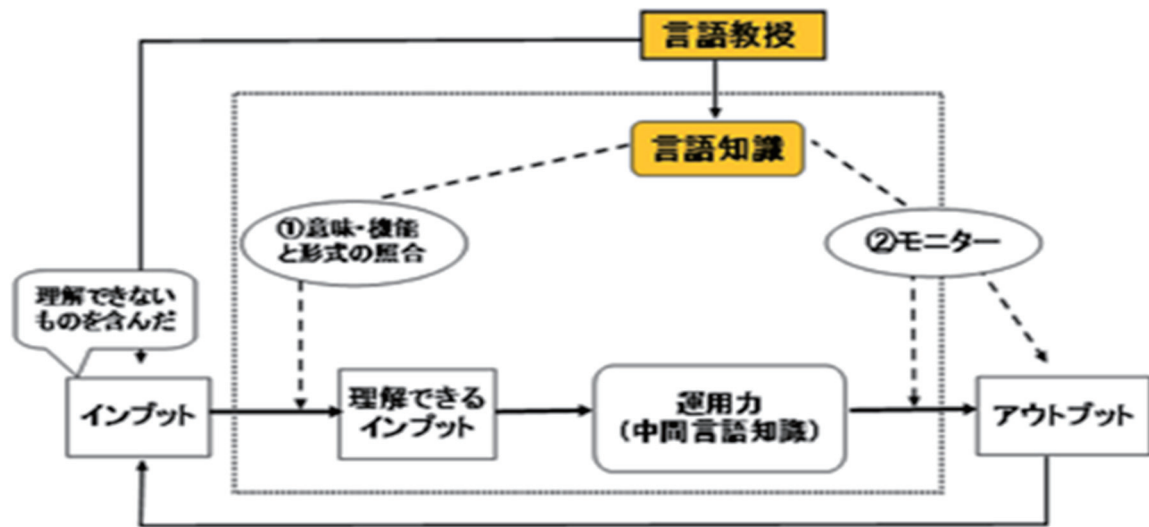


図-1 第二言語の習得過程

を意識した教材教具の作成について、漢字学習では、どのようにインプットを与え、どのようにアウトプットを与えるのが効果的か、特に、漢字学習は、モチベーションの低下による問題が指摘されているが、その解決方法としてどのような工夫を行ったかについて報告する。

## 2 実践事例

### 2-1 クラスおよび授業の概要

調査対象者は、2023 年秋学期（第 2 期）の学生 5 名（内訳、ベトナム 1 名、韓国 4 名）および 2024 年春学期（1 学期）の学生 6 名（内訳、ベトナム 1 名、韓国 3 名、台湾 2 名）とした（ベトナム 1 名および韓国 1 名の 2 名は 1 年コースのため重複）。2023 年秋学期の学生は 2023 年 12 月に JLPT の N2 を、2024 年春学期の学生は 2024 年 7 月に N1 を受験する予定であった。

授業はチームティーチングで行い、月～金の週 5 日（90 分を 1 日 2 コマ）を 4 人の教師が担当し、漢字の学習については月～金の週 5 日、最初の前半 45 分程度で共通漢字として学習している。JLPT 試験対策としては、後半に読解、聴解、文法、漢字などをそれぞれの担当者が週 1 コマ（45 分程度）で実施し、筆者は漢

字を担当している。

### 2-2-1 共通漢字の概要

共通漢字の到達目標は「主に学んだ漢字を使って文章を書くことができる」とし、運用力の養成を行った。共通漢字のテキストとしては『日本語能力試験ターゲット 1000N1 漢字―改定版―』（旺文社）の内容を使用し、自作の教材教具として、漢字が書かれた文字カードおよび漢字練習用のタスクシートを用意した。

飽きる

図-2 文字カード例

### 2-2-2 共通漢字の授業の流れ

共通漢字の授業の大まかな手順は以下の通りとした。

#### ①ディクテーション（音声を聞いて書く問題）

前回の復習として、ディクテーションを行う。ディクテーション用の例文は前回の授業で引継ぎされた例文を使用し、当日、担当教師が指定された例文を音声

漢字の読みの確認

【飽きる（            ）きる】

飽 おん 音読み [            ] 飽食

くん 訓読み [            ] かす・きる

←	←	←	←	←
---	---	---	---	---

自分の例文： \_\_\_\_\_

選んだ例文： \_\_\_\_\_




図-3 漢字練習用タスクシート例

で提示する。音声は2回から3回提示する。学習者は指定の漢字は必ず書くこととし指定の用紙に例文を書く。教師は指定の用紙を回収し、ディクテーションを担当した教師が添削をして次回返却する。

## ②導入（読み方、意味の導入、コロケーション：インプット）

1日に覚えられる量を考慮し、1回につき該当する漢字を含む5つの単語を学習することとした。

文字カード（学習する漢字を含む語彙が書かれたカード）を使用し、それぞれの漢字の音読み、訓読みの確認をする。その際、タスクシートを使用し、タスクシートに音読みをカタカナ、訓読みをひらがなで読み方を書かせる。また、共起する助詞などのコロケーションの確認もする。

ビジュアルエイズなどを使用し、語彙の意味を確認する。複数の意味がある場合はそれぞれ紹介をする。

## ③練習（漢字を書く練習）

漢字の読み方の確認をした後、それぞれの漢字の書き順、字形で気を付ける点などの確認をする。書き順

は板書もしくは空書きで確認する。漢字を書く練習にはタスクシートを使用し、マス目に漢字を書く練習をさせる。その間、教師は正しく書けているかをモニターする。

## ④例文作成（使い方の練習：アウトプット）

ペアもしくは3人のグループになってもらい、学習した漢字（語彙）を使用した例文を考えてもらう。ペアもしくはグループの代表者が前に出て例文を板書する。例文は教師が添削するが、学習者へ気付きを促すためインターアクションしながら添削をする。その際には一方的な説明にならないように気を付ける。次のディクテーション用の例文をくじで決め、決まった例文は書き写し、次の担当教師へ引継ぎをする。

### 2-3-1 JLPT 試験対策漢字の概要

JLPT 試験対策漢字の到達目標は「漢字で書かれた語を読むことができる」「ひらがなで書かれた語が、漢字でどのように書かれるかが分かる」とし、JLPTに合格ができるよう対策を行った。試験対策漢字のテキストとしては2023年秋学期（第2期）は『日本語総まとめ

N2 漢字』（アスク）を、2024 年春学期（第 1 期）は『日本語総まとめ N1 漢字』（アスク）の内容を使用し、自作の教材教具として、ワークシートを用意した。事前

学習としてテキストの 6 ページ分を覚えてくるよう宿題とした。

第 2 週（ ）日目

【漢字クイズ】 チームで全部の漢字が読めたら 2 ポイントです。チームで PASS(○)は 2 回まで、×も 2 回までです。3 回×になったら強制終了です。

①	②	③	④
⑤	⑥	⑦	⑧
⑨	⑩	⑪	⑫

図4 ワークシート例

### 2-3-2 JLPT 試験対策漢字の授業の流れ

JLPT 試験対策漢字の授業の大まかな手順は以下の通りとした。

#### ① プレタスク

くじを引いてチームを 2 つ（例：A チームと B チーム）に分ける。チームのメンバーで協力して図 4 のワークシートに宿題として課された 4 ページ分の中から、それぞれのチームに指定された 2 ページから 12 の単語を選んでマスに漢字で書く。

#### ② 練習（漢字ゲーム）

1 人が他のチームが書いた図 4 の①～⑫の単語の中から 1 つ選び、漢字の読みを紙にひらがなで書いて口に出して読む。その際に、書いた紙は他のチームの学生に見せる。他のチームの学生は、読めたかどうかの

ジャッジをし、読めたら○、読めなかったら×をマルバツ棒で判定し、×が 3 回になったら強制終了となる。①～⑫全て読み終わったら、他のチームと交代をして再開をする。なお、チームで全て時間内に読めた場合はチームの全員にポイントを与え、最終日にポイントが多かった人に商品を贈る。

#### ③ 練習（練習問題）

テキストの練習問題をその場で一緒に答え合わせをする。一人ずつに当てて答えてもらう。

#### ④ 小テスト

最後に JLPT 同様の問題形式による小テストを 5 分程度で実施する。小テストは終わったら教師が回収し採点をした後、後日、返却をする。次回の課題として 4 ページ分を覚えてくるよう、予習の指示をする。

小テスト (第1週 1日目～2日目)		名前 ( )			
<b>問題1</b> _____の言葉の読み方として最もよいものを、1・2・3・4から一つ選びなさい。					
1 次の文章を読んで答えてください。	1 ぶしょう	2 ぶんしょう	3 ぶんしょ	4 ぶしょ	
2 コロナのせいでアルバイトへの影響が大きい。	1 えいぎょう	2 えぎょう	3 えいぎょう	4 えきょう	
3 クリスマスパーティーに招待された。	1 しょうだい	2 しょうだい	3 しょうたい	4 しょうたい	
4 この場所で古いお金が発掘されたことがある。	1 はくつ	2 ほくつ	3 はつぱり	4 ほつぱり	
5 デパートではきれいに包装してくれる。	1 ほそ	2 ほうそ	3 ほそう	4 ほうそう	
<b>問題2</b> _____の言葉を漢字で書くとき、最もよいものを、1・2・3・4から一つ選びなさい。					
1 日本で運転免許のしゅとくをした。	1 取特	2 取得	3 手特	4 手得	
2 プロポーズをしたがきざつされてしまった。	1 去絶	2 巨絶	3 拒絶	4 距絶	
3 スマホは多くの世代にふきゅうしている。	1 普及	2 不急	3 不休	4 普旧	
4 サルが街中でほかくされた。	1 舗確	2 捕角	3 補獲	4 捕獲	
5 この道はいつもじゅうたいしている。	1 決隊	2 決滞	3 従隊	4 従帯	
<b>問題3</b> ( )に入れるのに最もよいものを、1・2・3・4から一つ選びなさい。					
1 来週発売される週刊 ( ) を買う予定だ。	1 詞	2 詩	3 紙	4 誌	
2 日本語の勉強は最初に五十 ( ) を勉強する。	1 話	2 音	3 語	4 個	
3 週末に新幹 ( ) に乗って京都へ行った。	1 線	2 道	3 船	4 車	
4 この話はアニメの ( ) 一章に書いてある。	1 第	2 大	3 代	4 題	
5 N1に合格したので学校から表彰 ( ) をもらった。	1 票	2 状	3 式	4 条	

図-5 小テストの例

## 2-4 授業アンケート結果

授業の最終日に、学習者に漢字の授業への感想を自由に書いてもらった。以下は学習者のコメントである。

授業全体についての感想は「準備してくださった活動をすべて楽しくしました。今までありがとうございました。」「授業時間が退屈ではなく、私のレベルにあった授業だったので良かったです。」「毎回資料と一緒に説明してくださって理解しやすかったです。ゲームしたり商品もたくさんいただいてうれしかったです。」「いつも楽しく勉強させてくれてありがとうございました。」「授業内容を理解しやすいように、いつもプリントや写真を作ってくれて本当に感謝しています。いつもお世話になりました。」

「漢字で例文を作るのが面白かったです。」「チームを分けて例文を作ったりゲームをしたりなど、直接

的に参加できる活動をして良かったです。」「先生はいつもベトナム語付きの漢字リストを印刷してくれるので、学習しやすいです。いつも楽しく、覚えやすいよう工夫します。」など、主教材であるテキスト以外の副教材を工夫したことに関して評価が高かったことがうかがえた。

漢字学習については「漢字を覚えてもいざゲームをする時はよく思い出せなくて困りましたが、それでも面白かったです。」「私にはほとんど初めて見る漢字で大変だったが楽しかったです。」「おもしろかったですけど成績に入るのは不公平だと思います。」「楽しかったですが範囲が少しだけ多かったです。」「普通に紙に書いてテストするのではなく、楽しく漢字を学べと思います。」「量は多いですが、必要だと思います。」「漢字ゲーム (Quiz) のおかげで、楽しく漢字をおぼえやすかったです。」「面白かった



です。毎回、ゲームの前に必死で覚えました（笑）。ゲームじゃなければ、たぶん覚えられないと思います。」

「楽しいと思います。ゲームの方法、早く漢字を覚えます。」「一番面白かったです。」「最初は難しくてあまり好きじゃなかったが、このゲームの授業のおかげで漢字の実力がたくさん上がったと思います。」

「難しかったが、たくさんの漢字を覚えることができました。」など、比較的好意的な感想が述べられ、多くの学習者が漢字学習を前向きに捉えていたことが分かった。特に自分たちで例文を作成したことは評価されており、実際の使用を考えてのアウトプットの重要性に再度気付かされた。なお、2024 年春学期（第 1 期）では、漢字のゲームはチーム対抗戦ではなく個人戦として実施し、評価についても成績には反映させず、優秀者に商品を贈呈するなど変更を加えた。

### 3 まとめと今後の課題

漢字学習について学習者が興味を持つような活動をするため、今回の漢字の授業では、中上級者でも視覚的にビジュアルエイズを多用した。その結果、分かりやすかったとの意見が多かったことから、初級者だけではなく中・上級者に対しても意味の説明などではビジュアルエイズが有用であることが分かった。

また、頭の整理を促すような活動として、学習者に例文を作成してもらい、気づきへの促しを行った。特に、例文を作成して代表者に例文を板書させたところでは、文の構成（主述関係）、使い方の間違い、字形の間違いなどについて添削をすることが多かった。添削活動する際に学習者とインターアクションすることでより理解が深まったようであった。教師主導型の一方的な教師による説明ではなく、漢字学習に関してもアクティブラーニングによる学習は効果的であることが示唆された。

改善点としては、ペア（グループ）ワークのさせ方

についてあげたい。今回はペア（グループ）を作る際は公平にくじ引きをして行った。積極的な性格の学習者とのペア（グループ）の場合は、お互い積極的に話し合っただけで例文を考えてくれたが、おとなしい性格の学習者同士のペア（グループ）の場合は、各自が例文を作成し、相談をすることなく順番に代表者として板書するといった行動が散見された。また、漢字のゲームにおいては協調性に欠けることもあり、最近ではペアワークなどの協働作業の重要性が問われているが、ペアワークの苦手な学習者への対応も考慮する必要があると思われる。

また、JLPT との関連性として、テストの点数を取るための学習ができていたかどうか疑問に残ることがあげられる。授業での活動が学習者には好評でも、到達目標でもある JLPT に合格することができなければ意味のない活動になりかねない。これらの問題は今後の課題として引き続き取り組んでいくつもりである。

〔註〕

註 1 日本語能力試験（JLPT）とは、日本語能力の認定試験のこと。N1（上級レベル）～N5（初級レベル）までの 5 つのレベルがある。N1 が初級「Can-do リスト」によりレベルが策定される。2002 年から日本留学試験（EJU）が実施され、これに伴い日本語能力試験（JLPT）は大学入学選抜との関係は解消された。

〔引用文献〕

1) 独立行政法人日本学生支援機構（2023）「「2023（令和 5）年度外国人留学生在籍状況調査」等結果の公表について」

<https://www.jasso.go.jp/about/press/jp2024052401.html>

（アクセス日 2024.8.26）

2) 中村かおり（2019）「非漢字圏学習者の負担を軽減する漢字指導の試み」『拓殖大学日本語教育研究 = Journal of research in teaching Japanese language』4, 31-54

3) 飯嶋美知子（2015）「語彙マップ 1」を掲載した漢字

教材を使用しての漢字授業」『JSL 漢字学習研究会誌』  
7(0), 19-28

4) 国際交流基金 (2011) 『日本語教授法シリーズ第 3  
巻「文字・語彙を教える」』ひつじ書房, 38-39

5) 国際交流基金 (2008) 『日本語教授法シリーズ第 14  
巻「教材開発」』ひつじ書房, 21-25

[参考文献]

1) 彦坂佳宣 (2015) 『日本語能力試験ターゲット 1000N1  
漢字改定版』旺文社

2) 佐々木仁子、松本紀子 (2010) 『日本語総まとめ N2  
漢字』アスク出版

3) 佐々木仁子、松本紀子 (2010) 『日本語総まとめ N1  
漢字』アスク出版

[付記]

本論文は、第 6 回アンコールワット国際日本語教  
育セミナー (2024) で口頭発表した研究を発展させ  
て、その成果をまとめたものである。

## An Attempt to Teach Kanji to Intermediate Learners of Japanese

Shotaro MIYAKO

abstract : At R University, Japanese language classes have been taught to exchange students with the goal of passing the JLPT N1 or N2 as one of the course goals. In particular, as the number of international students from non-Chinese character countries has increased, kanji learning has been conducted every day for the past few years in classes five days a week. Japanese classes are team-taught by multiple teachers, and kanji learning is carried out with a handover. This time, we report on an attempt to teach kanji to exchange students at R University who are planning to take the JLPT N1 exam from October 2023 to July 2024. Using visual aids and having students create example sentences in kanji learning led to students' awareness, and as a result, many students gave positive feedback about learning kanji. In particular, the students' creation of example sentences was highly evaluated, and we were reminded of the importance of output with actual use in mind.